

大空 —放哉だより—

第174号 2026.2.5

発行:小豆島尾崎放哉記念館 〒761-4106土庄町本町甲1082 ☎62-0037

大正15年2月、南郷庵で冬を迎えた放哉は昨年12月頃から続く風と寒さが相当堪えていたようです。この頃の書簡や『入庵食記』には、引き続き『大空』第172号に掲載した内容と同様のものが見られます。

では、俳句についてはどうだったでしょうか。この冬に作ったと思われ『層雲』に掲載されている句、そして掲載されなかった句の一部を『放哉全集第一巻 句集/筑摩書房』、『尾崎放哉全句集/筑摩書房』からご紹介します。

『層雲』に掲載された句

くると剃つてしまつた寒ン空
風吹きくたびれて居る青草
寒ン空シヤツポがほしいな
わが家の冬木二三本
冬木の窓があちこちあいてる
菊枯れ尽したる海少し見ゆ

『層雲』に掲載されていない句

低い山なれど海風強く
うしろから吹く風海風
咳して出る寒ン空
あけがたの風強し水汲む音
風音の障子あけられず
風音の夜中の柱にもたれ
風音のなかに寐る庵無し
落葉水に流れ去る風の日づく
風にたほれた藤の枯棚起す力無し

※『尾崎放哉全句集』では、『層雲』に掲載される前(萩原井泉水に添削される前)の句などを見比べて読むことができます。

作家 津村節子氏 令和7年秋の叙勲 旭日中綬章ご受章おめでとうございます。

津村節子氏は昭和3年福井県に生まれ、学習院女子短期大学国文科在学中から小説を発表。これまでに数々の賞を受賞されています。夫の故 吉村昭氏も作家として多数の作品を残され、尾崎放哉を描いた小説『海も暮れきる』はテレビドラマ化されました。記念館開館の際にはご夫婦でお越しくださり、記念碑(吉村昭氏揮毫)の除幕を行っていただきました。

今回の受章ならびに芥川賞受賞60年を記念した企画展示が『三鷹市吉村昭書斎』にて開催されています。会期は令和8年1月15日~7月20日です。詳細は『三鷹市吉村昭書斎』へお問い合わせください。

お知らせ

1月13日(火)から2月12日(木)(予定)まで、町立図書館は照明設備改修のため休館中ですが、土庄町尾崎放哉資料館は通常通り開館しています。

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
●放哉だより発行日 □記念館休館日 □資料館休館日						



第25回放哉ジュニア賞

今回もたくさんのご応募ありがとうございました!

現在、選考委員による審査が行われています。

授与式は4月7日(火)、放哉忌で執り行います。

